



青年塾『京都解体新書』 京町家を歩く

京都を様々な角度から見つめ、京都についてより深く知り、新しい何かを見つけ、自分なりの京都を考えるプログラム「京都解体新書」の第2回目の講座「京町家を歩く」が、7月30日に行われました。

第1章は、「新しい京都と出会う」と題して、京都について考えるきっかけづくりを、パネルディスカッション形式で行いましたが、今回は、「京の町家」を実際に訪問するフィールドワーク形式で行いました。



午前中は、祇園祭の鉾町にある町家を2軒訪問し、実際にお住いになっている方の努力や苦労を聞き、町家を表面からでなく、住んでいる人の側からとらえることができました。

午後からは、町家に住みたい人が空家を借りて住めるように情報を発信している「町家倶楽部ネットワーク」の案内で西陣の町を歩いたあと、その活動について話を伺うことにより、町家を活用しようという動きを知ることができました。

参加者からは、「風や光を肌で感じ、季節の移り変わりを大変大切にされていることを感じた。便利さばかりに目がいきすぎだが、昔から大事にされている生活の知恵のようなものを、これからの生活にも取り入れていければいいなと思った。」。「京都の文化に触れられて勉強になった。何でも新しいも



のに走るのではなく、見極めをしっかりと、本当に良いものとは何か?を考えていきたい。」などの感想があり、今回のプログラムを通して、京都を考えるきっかけになったのではないかと評価しています。



メダカの池☆復活大作戦！

今年も、メダカの季節がやってきました！

去る、7月8日（土）～9日（日）に、福知山市の下六人部地区にて、青年塾第一回体験講座として『メダカの池☆復活大作戦！』を実施しました。

環境破壊が進んでいるといわれるなかで、身近に感じているメダカでさえ、昔に比べてすっかり数少なくなってきています。そこで、メダカの学校の校長先生である、塩見日出勝さんとともに、青年塾でも毎年このプログラムを取り入れてきました。

このプログラムは、単にメダカの棲める池をつくることだけが目的ではなく、地元の子どもたちが環境や生物に関心をもてる場をつくる、また、青年塾参加者だけでなく地元の方々と協力して一つのものを作り上げるなど、「地域」というものにも目をむけ、環境だけでなく、様々なことを感じ取ってもらえることを目指す体験型プログラムです。

今回も多くの方の参加があり、日頃の行いが良かったのでしょうか、心配していた雨も降らず、2日間天候に恵まれて、大きな怪我もなく完成を迎えることができました。今年は元々メダカの棲んでいる小さな池がありましたが、地元の方にもあまり知られておらず、より、子どもたちに観察しやすく、関心を持ってもらえる場にしようと、地元の子どもたちから大人まで、多くの人達と協力して素晴らしい池を完成させました。

1日目

地元の方と合流し、プログラム開始！でも、その前に腹ごしらえを…。



杭は皮をむいて、焼いておくと長持ちするのです

いよいよ、作業開始。まずは池の材料となる間伐材を2ヶ所から切り出した



今回で2回目の参加で、いろいろ自分から進んで行動出来るようになった。小学生がいっぱい参加してくれたことが、感動した。

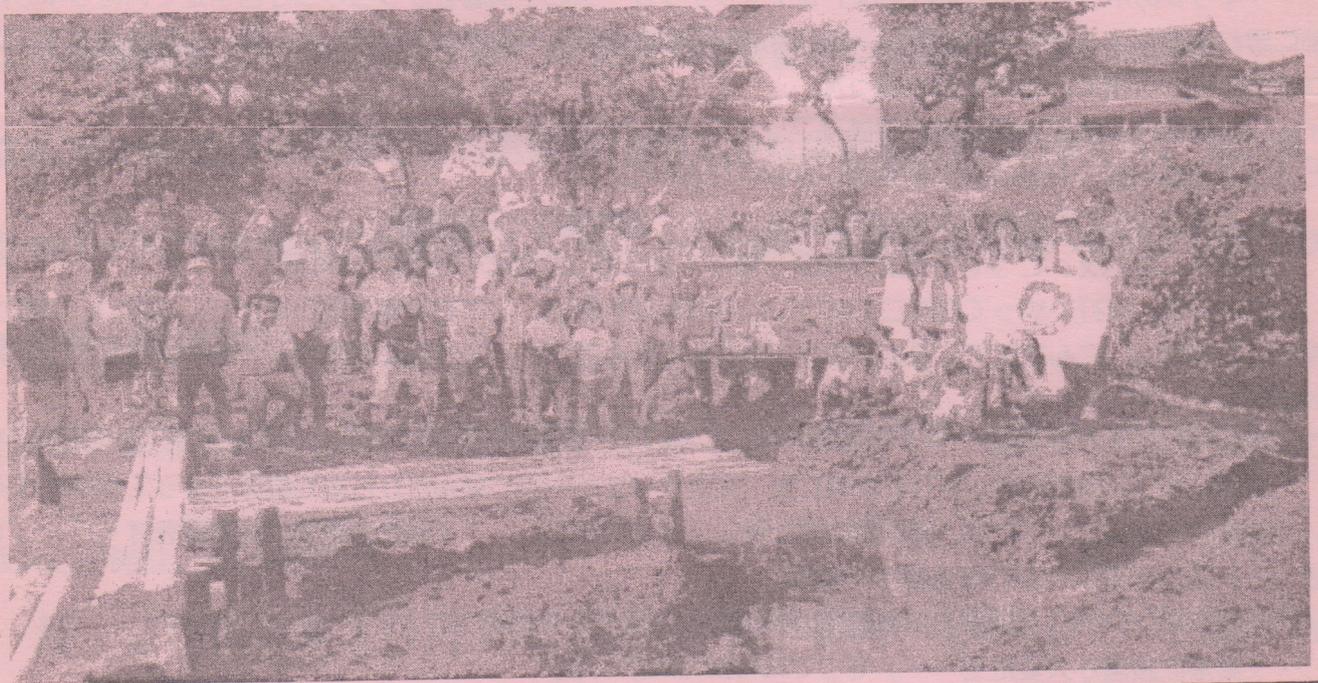
<今回初めて知ったこと>

チェーンソー、草刈り機の使い方！！

(青年塾生・男性)



こどもたちが名づけた池の名前は・・・・・・・・



地域の方々と話が出来たことが、とても新鮮な気持ちになりました。

メダカの池をつくるにあたって、みんなで協力していく団結力がすごくあったと感じました。

初めてこのプログラムに参加して、地域の方々小学生と、親睦を深められたことは、本当に良い経験をしたと思います。自分の近所にはそういうことが最近なくなったので、すごく良かったです。(一般参加・男性)

性別、年齢を超えて、みんながメダカの池をつくるという共通の目的を持って動いて、日常では体験することが少ない連帯感があって良かった。記念撮影の時、もう、このメンバーで集まることはないんだな、と思うと、人生その繰り返しかなと思った。

食事はみんなでするものですね。作るのも片付けるのも。

このごろ、長く生きた人をとても尊敬します。今まで、年寄りを敬えと言われても、なんでそんな理由で、と思ってたけど、やっぱり、それだけすごいんだなあと思う。

(青年塾・女性)

今回初めて参加しました。自然と口では言えるけど、実際にはどう、接していけば解らないと思っていたときに、良い機会なので参加しました。地元の人達とも楽しく会話でき、こども達も気さくに喋ってくれたので嬉しかったです。自分たちでつくった池が完成したとき感動と同時に、来て良かったーと思いました。これを機に、これからも自然を認識し、大切にしていきたいと思いました。そして、メダカの成長を見届けて行きたいです。(一般参加・女性)

まち遊びフェスティバル2000

まち遊びフェスティバル実行委員会

今年で6回目を数える「まち遊びフェスティバル」が8月13日 日曜日、舞鶴市前島みなと公園周辺において開催されました。

当日は晴天とはいかずともますますの天候の中、たくさんのお客さんと共に無事終える事ができました。今日はイベントの裏側をレポートしたいと思います。

○今年が目玉企画のひとつ、「本物のキリン」がやってくるーっ！のハプニング編

「キリンのポッキー君に乗れるよ」をキャッチフレーズに子供層をがっちりつかむ予定でいた今年の執行部に思わぬ訃報。「ポッキーは昨日、東京でCM撮影の帰りに交通事故で他界しましたー」脳裏をよぎる安らかなポッキーの遺影。あと2日と迫った

イベント当日への焦りの中、執行部はアフリカの大地で代わりのキリンを捕獲しようと走り回る動物園のおっさんの姿を思い浮かべたという。

ところが「代わりのキリンをさがしますっ」と、動物園の人は自信満々。

いるもんだねえ、どうやら東北から引っ張ってきたらしい恐るべきはプロ根性。

ところが、代打でやってきたこのキリンには何の芸も無い。しかも栄養不足かミョーに小さい。おまけに異常に動物臭い。こんな訳でスタッフはがっかりしてたんだけど、子供達は大喜び。「キリンだぁーっ！」の大盛況でヤレヤレでした。

○大勝負「ルミナリエ」編

仮設イベントの限界ギリギリに挑戦した「ルミナリエチーム」なんと6万個の電球を使って教会を作るという企画にチャレンジしたが、まず物理的な壁にブチ当たった。「会場の電気の総容量をオーバーしてるぞ・・・」そこへスタッフの電気屋さん登場。

「カタログデータと実際の消費電力は違うっ！と思う、たぶん」

「異常に設営が大変だぞ・・・」そこで執行部の喝が入る。

「10日前から会場は押さえた。設営は10日間いける」

いよいよ前日・・・

「明日、台風がくるらしいぞ。雨も降るぞ」そこで事務局長が一言。

「雨は降らんっ！風も吹かんっ！イケ！」という訳で、スタッフは徹夜3日目の体に

ムチを入れて電球を取り付けた。全部が点灯した時には、スタッフはとても見ていられる状態じゃなかったらしい。

○大苦情！フリマ出店者編

イベントの立て役者「フリーマーケット」の方々。出店場所選びは早い者勝ちという事で、いつも長蛇の列を作ってくれます。今年が一番乗りは前日の19:00に到着。

この人、奈良からハルバルかき氷セットを持参しての常連さん。入場開始早々、真っ先にステージ前の特等席に滑り込みました。

ところが、横も後ろもかき氷。しかも地元の出店者ばかり。

「なんじゃいこれは！わしゃ帰る！」と怒り爆発。事務局長との押し問答は実に30分に及んだ。結局二人は意気投合。「来年も来るよ」と上機嫌。

その日事務局長はかき氷を何杯食べたか解らない位、食べたさ。

ゆめっと京都 KKサポート事業 開催告知

今年度、2つ目のKKサポート事業が実施されることになりました。実施する団体会員は、京都青少年未来の会、京都府北部国際交流協会の2団体です。事業名は、『星ぞらツアー』——☆きらきら星☆のうた——です。

事業の内容などを、チラシからひろってみました。
まずは、チラシのアピールメッセージから

あれだけ暑かった残暑も終わりにちがづき、そろそろ秋があちらこちらで感じられる季節になりました。この秋の夜長、夜空にまたたき、かがやく星、星座も見ながら夜道のハイキング、そして突然現れるしが、いのしし、たぬき、のうさぎなどの動物との出会い。歩いた後は、標高400mの三岳山中腹で日の出観察、運がよければ雲海が見られるかも？ 夜には、夜空をバックに火を囲んで交響曲(シンフォニー)を奏でる管弦楽の調べを聞きながら自然の世界へのいざない。

さあ日頃の生活をはなれ、秋の夜長の星ぞらが待つ、2日間のツアーへ参加してみませんか。

では次に日時などの詳細を

日 程 2000年10月7日(土)午後10時~9日(月)午後0時

内 容 ナイトハイキング(夜道のハイキング)・日の出、雲海観察・自然散策・キャンプファイヤー交流会・プラネタリウム見学

場 所 京都府三岳青少年山の家(京都府福知山市喜多)

参加費 一般 4,500円 高校生3,500円(食事4食分、宿泊料、保険料を含む)
ナイトハイキングのみ参加 500円(朝食代、保険料を含む)

対 象 京都府内在住、通勤、通学の高校生以上の青少年 40名(先着順)

内容は、ナイトハイキングに日の出・雲海を見て、周りの自然で安らいで癒されて、夜は楽しいキャンプファイヤーで交流会というような感じですね。でも少し気になるのが、キャンプファイヤーの部分のチラシの文句「火を囲んで交響曲(シンフォニー)を奏でる管弦楽の調べ」の部分。管弦楽・・・つまり、管弦楽のアンサンブルが聞けるというような感じですね。これは行く価値大!!こんなキャンプファイヤーはそうめったに聞けるものじゃない。ではもう少し詳しく事業の紹介を。以下次ページ

では、事業の詳しいプログラムなどを
プログラム

- 10月7日 22:00 集合 (JR福知山駅)
22:30 出発 ナイトハイク『星空ツアー』
- 10月8日 05:30 三岳山の家到着 その後宿舎へ入り休憩
06:00 雲海・御来光観察 『夜空の星が眠る頃』
07:30 仮眠 ナイトハイキングのみ参加者解散
(最寄公共交通機関へは主催者側で輸送)
13:30 昼食
14:30 自然交流体験『太陽という名の星の恵み』
18:00 夕食
19:00 キャンプファイヤー『炎と星の交響曲(シンフォニー)』
21:00 交流時間・自由時間
- 10月9日 07:00 起床(朝食は07:00~08:00)
09:00 三岳山の家 出発
09:30 児童科学館、プラネタリウム見学『満天の星空のなかで…』
12:00 JR福知山駅にて解散

では最後に主催者側からのメッセージをどうぞ

私は、今回の星ぞらツアーを主催しています京都青少年未来の会、広報の渡辺といいます。このツアーは、我々が当初計画していた規模より大きくなり、ゆめと京都はもとより京都の青少年関係施設にチラシを配布したり、各新聞社には掲載依頼をするなど、うちの会としては初めての事ばかりです。今回は、実施場所が福知山ということで、北部国際交流協会のご支援をいただき実施できるようになりました。また、KKサポートからも助成金ほか物品の借用など多岐に渡ってご支援をいただき感謝しております。

この事業のウリは、星、夜空です。これに関することなら何でもいろいろプログラムを組んでいます。その中で2大イベントといえるのが、ナイトハイキングとキャンプファイヤー交流会です。ナイトハイキングは文字通り夜に行うハイキングですが、星座を観察したり、月を眺めながら歩いたり昼よりも楽しいと思います。また山間部付近では、鹿、猪、野うさぎなどの動物にも出会える可能性もあります。(下見では実際に遭遇しています)。また、キャンプファイヤーでは、管弦楽団の金管楽器の5重奏を聴きながら、火を囲むといったものを考えています。後は来てのお楽しみですね。とにかく、普通では味わえないプログラムです。興味ある方は是非参加して下さい。

だそうです。皆さんも行きたいなと思ったら迷わず参加しましょう。

この事業に関する、問い合わせ先、申し込み先は

京都青少年未来の会 事務局 渡辺さんまで

電話 090-2061-4873

E-mail: mirainokai@mail.goo.ne.jp

住所 611-0011 京都府宇治市五ヶ庄官有地 渡辺 篤方

京の歳時記

今号の京の歳時記は、10月22日（日）に行われる京都の三大祭の一つの時代祭を取り上げました。

時代祭

JIDAI-FESTIVAL
in KYOTO

■祭の起源

平安遷都 1100 年にあたる明治 28 年 3 月に桓武天皇を祭神とする平安神宮が創建された。その祭りを盛大に行おうと、京都が都であった時代の風俗の変遷を表現する時代行列が提案され、その第 1 回が同年 10 月 25 日に挙行された。初回の行列は、創建された平安神宮へお参りする姿として行われたが、その後は桓武天皇と孝明天皇の祭神二柱の神霊が京都御所から市内を巡行して、市内の繁栄をご覧になるという姿に変わる。この神幸列にお供をするというのが時代行列本来の姿。祭りの期日は、翌年から桓武天皇の車駕が新都にはいった日とされる 10 月 22 日に改められた。



■歴史



当初は 6 列と少なかった行列も、市域の拡大と共に次第に増え、1921 年（大正 10 年）に 8 行列、1931 年（昭和 6 年）に楠公上洛列と豊公参朝列が増え 10 行列となった。戦火の拡大と共に 1944 年（昭和 19 年）からしばらく中断されていたが、昭和 25 年に再興され、これを機に江戸時代・中世・平安時代の 3 つの女人行列が新たに加わり、更に昭和 41 年に幕末志士列が加えられた。

■祭の特色・現代の行列

行列は明治維新から江戸、安土桃山、南北朝、鎌倉と 7 つの時代をさかのぼる。現在の行列は、18 列、約 2000 人、牛馬 70 余頭で全長約 2 km におよぶ。衣装や調度品、祭具は 1 万 2000 点にも上る。京都の工匠や染色の識者が考証研究を重ね、帯 1 本から糸に至るまで各時代の素材を使い現在に蘇らせた。



■町衆の情熱・平安講社



創建当時、平安神宮の建物の維持や祭の挙行に、市民が 1 日 1 厘のさい銭を奉納することが提案され、市民が祭を運営する平安講社の組織づくりが始まった。平安講社は市内の旧学区単位で構成され、各講社がそれぞれの行列を担当、脈々と受け継がれてきた。行列に参加する参加者は、数カ月も前から各学区の小学校などで隊列や着付けの練習に入る。

ゆめっと告知板

KKサポート委員会

☆「KKサポート」って何？

KKサポート事業は京都府の補助金を財源として、ゆめっと京都に加盟している団体の内、複数の団体が共同で行う事業に対して資金の助成を行うものです。

☆「KK」の意味は？

「貢献 (KOUKEN)」と「交流 (KOURYU)」の頭文字の「KK」です。

ゆめっと加盟の複数団体が協力して社会に貢献する事業を作り上げる過程において団体間の交流を深めネットワークを強固なものにしていこうというものです。

☆助成金の金額は？

なんと、上限120,000円!

これはすごい！多少煩雑な手続きは必要ですが、それは助成金の交付を受けるためにはあたり前。見逃せません。

今年度は予定として10の事業について助成を行う事になっています。まだまだ枠は残っています。

☆どうすれば助成を受けられるの？

毎月行われる役員会の2週間程前に申請をして、kkサポート委員会に事業内容について説明をしてもらえればOK。役員会の詳しい日程、申請方法等は事務局にお問い合わせください。

この助成制度は、3年前から行って来ています。資金の調達や不足に悩む団体が多いとのアンケートの結果にもありました。手続きも簡単です是非利用して下さい。

他の団体との交流により人脈も広がり活動の中も大きくなるというもの。それこそが「ネットワーク」です。初めの一步には、エネルギーが必要ですが思い切って踏み出しましょう。

ネットワークを構築するのは加盟団体の皆さん自身です！

編集後記

いやいや、今回の広報紙はなんか内容盛りだくさん！！いつもの活字ばっかりの見あきそうな紙面から一新。青年塾は、全ページ写真付き、特に毎年恒例のメダカの池復活大作戦は2ページの特集。そして今回のひそかな目玉が、今年2個目のKKサポート事業（えっ・・・？1個目ていつ??）『星ぞらツアー』——きらきら星☆☆のうた——ですね。なんか小説で星ぞらツアー殺人事件とか名前が付けられそう。でもこんな内容の事業は、青年塾以外ではゆめっとで余り広報したことは無いような気がしますが。がんばってもらって素晴らしい事業報告を次号に期待して今回はこのへんで失礼します。

広報委員会 スタッフの一人